

運転代行支援に融資

公庫・琉銀 アルパカ社へ300万円



沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長は6日、運転代行支援システムの

開発を手掛けるAipaca Lab（アルパカ・ラボ、宜野湾市）に、挑戦支援資本強化特例制度（資本性ローン）を適用し、2千万円を融資したと発表した。同時にメインバンクの琉球銀行も県信用保証協会の保証を受けて1千万円を融資した。アルパカ社は、

沖縄振興開発金融公庫や琉球銀行から融資を受けたAipaca Labの棚原生磨社長（中央）ら6日、那覇市の沖縄振興開発金融公庫

飲食店や個人客の依頼を受け、人工知能（AI）を活用して配車するアプリを開発している。個人客や飲食店の利便性が高まり、代行業者の効率も向上する。

融資を受けた合計3千万円は、システム開発費用や事業を展開していく上での運転資金として活用される。

ことし10月ごろに飲食店向けのアプリ提供を開始し、その後個人客向けの提供を始める予定。棚原生磨社長は「運転代行業界全体が疲弊している。従業員に正しい教育をして良いサービスをすれば売り上げに結び付くという、良い循環をつくりたい」と話した。

県産業振興公社が資金繰りのアレンジなどを支援し、公庫と琉銀が協調融資した。琉銀の融資に際して信用保証協会が県融資制度を活用してアルパカ社の信用力を補完した。

運転代行 AI が配車

アルパカラボ、アプリ開発へ

公庫と琉銀が融資

沖縄振興開発金融公庫（川上 好久理事長）と琉球銀行（川上 康頭取）は6日、ITベンチャーの「Alpacalab」（アルパカラボ、宜野

湾市・棚原生磨代表）に対し、AI（人工知能）を使った運転代行システムの開発に向けた運転資金を融資したと発表

した。融資日はいずれも昨年



12月20日付で、公庫は無担保無保証の中小企業・小規模事

沖縄振興開発金融公庫や琉球銀行から融資を受けたアルパカラボの棚原生磨代表（中央）＝6日、那覇市の同公庫

業者向け資本性ローンで2千万円。琉銀は1千万円で、県信用保証協会が保証した。県産業振興公社がアルパカを各金融機関へ紹介した。

アルパカは、2018年8月の設立。衛星利用測位システム（GPS）ではなくAIを使った独自の運転代行業者向けアプリを琉大と共同開発

している。利用料金をどう設定すると収益を最大化できるか、ビッグデータをもとに運転代行業者へ提案。短距離で多く受注するか、長距離で稼ぐかなど、運転代行業者の地域性を踏まえた無駄のない配車も可能になるといふ。

業者向けのサービスは10月に開始予定。運転代行業界は料金規制がないため低価格競争に陥っており、悪質なサービスが後を絶たないという。棚原代表は「システムにより業界を底上げし、課題解決のモデルを沖縄から全国へ発信したい」と話した。